

関東ふれあいの道(千葉)⑧桜をめぐるみち

2022年(令4)10月27日 池内淑皓

2022年6月16日(木)晴れ、梅雨の晴れ間を見てウオークに出かけた。
今回のウオークは、東金線の東金駅から歩き始めて土気駅ゴールの14.8kmで、比較的歩行距離の短いコースであるから、ゴールの土気駅前のホテルに宿泊して翌日コース⑨、⑩と歩き続ける事とした。タイトル通り春のウオークであれば良かったのに残念。



東金駅前に、関東ふれあいの道案内板が設置されている(首都圏自然歩道連絡協議会)



今日の歩行コース概略図 14.8km、4時間のコース



東金駅 8:40 の電車で到着、駅前から歩き出す



街道は古来の道らしく、古民家が所どころ残っている



駅からわずかな時間で八鶴湖畔に達する、やっとここに道標があった



昔は風光明媚な所であつたらしい



湖畔にある「八鶴亭」は国登録有形文化財となっており、昭和天皇もここに宿泊している



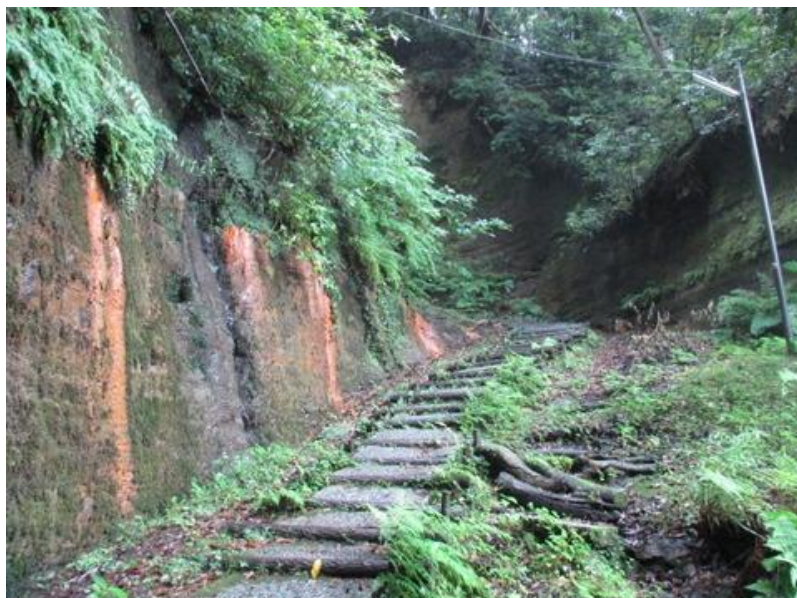
湖の外れに日吉神社入口の鳥居がある、関東ふれあいの道は鳥居を潜る



歩いて行くと、だんだん道は細くなり、切通しの様相を呈してくる



案内板によれば、この道は山王坂と言い、佐倉藩主の土井利勝が、家康の鷹狩の御成り街道として慶長19年(1614)船橋と東金を結ぶ36kmの道を開削したと記す



鎌倉でみられる切通と同じで、深く掘削して道の勾配を低くしている



神社への途中に「水野茂右エ門」の墓域があった。江戸時代この地方の豪族で酒、木材、醤油の取引で財を成したと伝える



「日吉神社」



参道の山武杉に歴史を感じる、樹齢400年以上で、市の天然記念物



「日吉神社」大同2年(807)天台宗の開祖最澄が諸国巡錫の折、山王権現を分霊したのが始まり、明治に入って日吉神社となった。



しばらく見かけなかった道標が、叢の中にあった



県道を越える



「法光寺」遙か彼方に工事中のお寺が見える。延徳元年(1489)日泰上人の開基。
江戸時代には上総地方屈指の大寺であったと伝える。



「雄蛇池」慶長19年(1614)代官島田伊伯が作った灌漑用の池。周囲4.5kmの周回遊歩道は素敵



池の面積25万㎡で、二つの半島が突き出ていることから、房総の十和田湖と云われているが??



関東ふれあいの道は、この湖を半周している



池の近くまで森が迫って来て、素敵なコースとなっている



半周したら池を離れて八坂神社に向かう



台地から平地に降りて、今度は農道を歩く



関東ふれあいの道、石の道標が縦に置かれている。建ててあるのは、分かり易くて良いね



「八坂神社」村の鎮守様、高台に鎮座



正法寺への道標は、木に隠れて見落としやすい



「正法寺」(日蓮宗)天正 10 年(1582)日祐を招いて檀林を開き、多くの学僧を育成したと言う。
度重なる大火によって堂塔伽藍を失った。



青田と里山の端境を歩く、稲がどんどん青くなってきた



切通を抜けて次の集落に向かう。これだと峠道にならないから、楽だ



「縣神社」長享2年(1488)土気城主酒井氏が城の鬼門除けに再建した



文化13年(1816)社殿を焼失したが、天保14年(1843)再建された



「土気城址」 神亀年間(724-759)大東氏により築かれた、その後千葉氏が土気の地頭職になったのでその勢力下に入った。室町時代には土気氏が地頭職となって土気城に拠ったが、天正 18 年秀吉の小田原征伐で落城し、廃城となる



町に入ると袖形の道標は邪魔となり、棒状の道標にかわりつつある。



JR 土気駅 15:15 到着。歩行 6 時間、22.7kmであった



駅前の土気ステーションホテルに宿泊

[参考タイム] 東金駅(8:40)→八鶴湖(9:00)→日吉神社(10:20-10:25)→ 雄蛇池 10:-11:00)→
八坂神社(12:00-12:25)→法光寺(13:30)→縣神社(14:06-14:10)→土気駅(15:15)

この項完

「関東ふれあいの道(千葉)⑨昭和の森をたずねるみち」に続く